

日時：2017年3月20日（月）12：00～

場所：東洋大学 2号館 3階 第1会議室

出席：渡邊芳之理事長、藤田主一副理事長、尾見康博、加藤司、松田英子、小塩真司、
山崎晴美、北村英哉、中村 真

欠席：荒川 歩（審議事項を理事長に委任）

※常任理事以外の出席者は次の通り（いずれも「報告事項」のみの出席）

- ・荒川経常的研究交流委員長の欠席にともない鈴木公啓委員が代理出席
- ・松田浩平第26回大会準備委員長が準備状況報告のため出席

日本パーソナリティ心理学会第123回常任理事会

報告事項

I 理事長挨拶

II 各種委員会報告

1 機関誌編集委員会（加藤委員長）

(1) 第26巻第1号（掲載予定）

一部は4月にもJ-STAGEにUPされる。残りは著者稿依頼中。予定通り3月に出版予定。この号から、採択され次第、jstageにアップする（4月から）。以下の半数は完成校、残りは、初校段階である旨の報告があった。

種別	題目	筆頭者	受稿	採択
依頼	Personality and Body Weight: Mechanisms, Longitudinal Associations and Context	A.R.Sutin	2016/11/16	2017/1/4
原著	日本語版 Short Dark Triad (SD3-J) の作成	下司 忠大	2016/3/20	2016/9/10
原著	サイコパシーが向社会的行動と身体的攻撃に与える影響：情動的・認知的共感性による媒介効果	田村 紋女	2016/1/15	2016/10/5
原著	攻撃的な人が不味い飲み物を与えるとき；挑発的行為と制御資源による影響	相馬 敏彦	2015/8/10	2016/10/14
原著	完全主義と選択的注意の関連の検討—トット・プロップ課題を用いて—	坪田祐基	2016/4/11	2016/10/19
原著	恋愛関係の崩壊によるストレス関連成長—愛着スタイルおよび崩壊形態の関連—	中山真	2014/1/14	2016/11/21
原著	高校生の LINE でのやりとりに対する認知に現代青年の友人関係特徴が及ぼす影響	時岡 良太	2016/3/12	2016/12/29
ショート	児童用強み認識尺度と児童用強み活用感尺度の作成及び、信頼性と妥当性の検討	小國 龍治	2016/8/19	2016/11/21
ショート	中年期におけるジェネラティブィティの構造とジェンダー差	相良順子	2016/3/20	2016/12/20

(2) 第26巻第2号

現在、採択論文、原著3、ショート3編（うち4編が国際文献社で初稿作成中。うち2編は英文校閲、著者からの原稿待）

(3) 審査状況

昨年度は投稿数・採択数が多かったが、今年度は全前年度と同規模。月ごとの投稿数を掲載してはどうかとの提案があったが（藤田副理事長）、技術的に難しいとの見解が示された（加藤委員長）。

年月	採択	審査中	修正中	不採択	取り下げ
1	8	15	20	2	1
2	3	10	16	2	1
3	3	16	12	0	0
4	1	22	21	1	2
5	1	10	19	5	2
6	3	17	4	5	5
7	0	13	11	4	0
8	2	17	9	4	1
9	2	13	9	2	0
10	3	15	6	1	0
11	2	13	8	2	2
12	2	13	7	2	
1	4	9	10	1	
2	1	14	8	0	

(4) J-STAGE への移行に関して

学会抄録、機関誌の J-STAGE への移管に関して、現在、J-STAGE とやり取りをしているが、J-STAGE 側の事情により、移管手続きが少し遅れているとの報告があった。

(5) DOI について

DOI は J-STAGE に UP される際に、巻号頁の下につけることになった。各ページの左上あたりにつく見込みであるとの報告があった。

(6) 年間1巻（1号）体制の検討について

注）中・長期的展望（検討）として

①主たるメリット

*J-STAGE に UP される際に、同時に頁を振ることができる。

*配送・印刷費の軽減につながる。

②主たるデメリット

*年間に1冊しか発行しないため、紙媒体でしか『パーソナリティ研究』に接しない会員にとっては、学会の勢いが弱まったと捉えられる可能性がある。

年間1巻(1号)体制については、委員長からの長期的な計画に関する意向があったことにとどめ、今後、継続して検討することにするを申し合わせた。

2 経常的研究交流委員会(荒川委員長の代理として鈴木委員が報告)

(1) 大会外企画について

3月17日に行われたパーソナリティ心理学コロキウムについて報告があった。登壇予定の先生が急病により欠席したことにもなうキャンセル料の取り扱いについて検討を行い、謝金は支払わないこと、ご本人から請求がある際には交通費のキャンセル料を15,000円を上限に支払うことを申し合わせた。今後もこの基準を踏襲することも併せて申し合わせた。

今回、急病により欠席した先生の代役として登壇した方は、経常的研究交流委員ではあるが、遠方からの参加であることを考慮して交通費を支払うことが提案され、承認された。

(2) 大会企画について

行動遺伝学に関する小講演の計画概要について説明があった。

(3) MPPについて

9月6日14:00~17:00開催予定。主な内容について概要報告があった。

(4) ソーシャルランチ

大会2日目の昼食時間に開催予定。参加費300円サンドイッチ+飲み物付きで行う予定。

(5) プラットホーム企画

本日の常任理事会開催前に学会主導大規模調査検討部会の会合を行い、運営方法について話し合いを持ったことが報告された。当面は、1企画に絞って検討することを申し合わせた。渡邊理事長より、学会として同企画に対して予算を計上したいとの意向が示された。

(6) Twitter 企画

ツイート12件、フォロワー175件であるとの報告があった。

(7) 本年度の決算案

同案について報告があり、承認された。

3 広報委員会(松田委員長)

(1) 活動報告

ウェブサイトの更新、メールニュースの配信などの活動内容が報告された。

(2) 委員業務分担

web ページ、メールニュース、web サイト外部委託の各業務について委員の役割分担の報告があった。

(3) ウェブサイトの外務委託進捗状況

現在、担当者間で「現在の web サイトのコンテンツの整理」「広報委員の業務を外部委託する範囲」などについて細かな検討を行っており、この検討を経て、業者から見積もりを取る予定であるとの報告があった。

(4) YPP2017 について

以下の通り、概要の報告があった。

- ・ 日程：9月6日（水）の午後を予定
- ・ 企画担当：小國龍治（関西学院大学）、下司忠大（早稲田大学）、森彩乃（お茶の水女子大学）、田崎優里（広島大学）
- ・ 担当広報委員：檜原潤、解良優樹、斎藤彩
- ・ 内容：企画担当で調整中

なお、渡辺伸子氏が大会側の YPP 担当委員に決まったとの報告が松田浩平 26 回大会準備委員長より寄せられた。

(5) 今後の活動予定（継続を含む）

- ・ ウェブサイトの更新，メールニュースの配信（随時）
- ・ 委員分担コンテンツの更新
- ・ web サイトの外部委託を継続検討
これについては、来年度の予算に反映させたいとの意向が理事長より示された。
- ・ YPP2017 の運営

4 国際交流委員会（小塩委員長）

小塩委員長より、以下の通り報告があった。

(1) 東洋大学 HIRC に報告書を提出した

- ・ パーソナリティと身体的健康—日本パーソナリティ心理学会第 25 回大会ワークショップの記録—（著者：小塩真司，全 6 頁）
- ・ 付記に委員会名，委員氏名を記載

(2) 依頼論文の件

- ・ Sutin 先生の筆頭論文が掲載予定
Personality and Body Weight: Mechanisms, Longitudinal Associations and Context

(3) 第 26 回大会で招聘予定の研究者

- ・ Dr. Bernardo J. Carducci
Professor, Indiana University Southeast
プロフィールは以下を参照

<https://www.psychologytoday.com/experts/bernardo-j-carducci-phd>
<http://carducci.com/>

委員会として、側面サポートをする予定。

(4) 委員構成 (2017 年度は変更予定なし)

- ・ 2018 年大会まで(2 期目) : 守谷順 (関西大学), 田中麻未 (千葉大学)
 - ・ 2018 年大会まで(1 期目) : 田島祥 (東海大学), 高野慶輔 (ルーヴェン大学)
- 担当常任理事 : 小塩真司 (早稲田大学)

5 学会活性化委員会 (山崎委員長)

(1) 大会発表賞

今年度も昨年度と同様に実施する予定であることが報告された。

(2) 25 周年企画

ロゴ・マークの募集企画案について、学会活性化に貢献する企画として趣旨説明が行われ、募集方法、選考方法、結果発表と表彰、作品の使用、予算について資料に基づき説明があった。今後、継続して検討していくことを確認した。予算についても同案が具体化することにもない対応することを申し合わせた。

(3) 大会校支援

25 回大会事務局長の守谷委員に、大会支援の窓口をお願いするとの報告があった。また、引き続き、大会マニュアルの整備も進めるとの説明があった。

(4) アンケートについて

前回常任理事会で報告した大会発表賞アンケートの結果をメールニュースで公開すること、それに基づいて本年の審査方針を決定したことを案内する旨の報告があった。

本学会に関する会員対象のアンケートをメールにて実施することを検討中であるとの説明があった。

6 学会賞選考委員会 (北村委員長)

北村委員長より、学会賞・奨励賞の対象となる「パーソナリティ研究」第 25 巻掲載論文の一覧が提示され、審査スケジュールと審査手続きについて説明があった。

論文筆頭者の複数受賞を可とするかについて、意見交換を行い、当面は複数受賞を妨げないこととし、今後、必要に応じて検討することを申し合わせた。

III 日本心理学諸学会連合

1 日心連理事会 (渡邊理事長)

2016 年 12 月 18 日に行われた理事会で「公認心理師」について報告があった。これをふまえて、第 26 回大会時の会員総会において会員向けに報告する準備を進めるとの意向が理事長より示された。

IV 第 25 回大会実施報告について（北村大会準備委員長）

第 25 回大会の収支決算報告書案が示され、常任理事会としてこれを承認し、第 26 回大会時に行われる総会に諮ることを申し合わせた。

V 第 26 回大会準備状況について（松田浩平準備委員長）

第 26 回大会の準備進捗状況について別資料に基づいて報告があった。理事会を大会前日（9 月 6 日）の 16:00～17:30 に開催することを申し合わせた。

VI その他

特になし

審議事項

I 2016 年度決算、2017 年度予算の件（尾見財務担当常任理事）

尾見財務担当常任理事より、正味予算管理月報(2016 年 4 月 1 日～2017 年 2 月 28 日)に基づいて財政状況に関する説明が行われ、承認された。

併せて、尾見財務担当常任理事より、現在のところ財政状況に問題はないが今後予定される学会運営事務の外注や旅費の増加にともない予算は圧迫される見通しである旨の説明があった。また、近い将来の懸案事項として、会費および機関誌の紙媒体廃止を同時に検討しなければならないとの見解が示された。

尾見財務担当常任理事より、2016 年度決算処理にともない、各種委員会において未提出の領収書原本を国際文献社に送付するよう依頼があった。

各種委員会から提出された 2017 年度事業計画・予算申請および尾見財務担当常任理事より示された 2017 年度予算案について審議を行い、一部修正したうえでこれを承認した。

II 名誉会員の推挙について（継続検討事項）

名誉会員の推挙について、規程および内規の変更を視野に検討を行い、次回常任理事会において理事長より提案してもらうことを申し合わせた。併せて、名誉会員の候補者についても選考を行い、次回常任理事会において審議に諮ることを申し合わせた。

III 第 122 回常任理事会議事録の件

審議の結果、同議事録が承認された。

IV 国際文献社との 2017 年度契約の件

審議の結果、同契約案が承認された。

V 会員の入退会に関する件

事務局より別紙の通り、新入会希望者 19 名（うち 8 名は ML 審議にて承認済み）の一

覧が示され、審議の結果、承認された。今回は、退会希望者なし。併せて、宛先不明者について報告があった。

以上の承認を受けて、2017年3月15日現在、会員総数は929名である。内訳は、一般会員655名、院生会員259名、学生会員4名、名誉会員8名、賛助会員3名。

※ 今回審議対象の新規入会希望者11名は含まれない。

VI その他

特になし。

VII 次回常任理事会について

今回は、2017年6月24日（土）15:00から東洋大学で行う。